



第9回松蔭読書会 『秘密』 谷崎潤一郎

3月14日(火) 13時より 松蔭中高図書館

読書会初の短編作品。

アニメ「文豪ストレイドックス」で親しみもある人もいるかもしれない谷崎潤一郎の作品です。
今回は、生徒4名と卒業生1名そして司書4名の9名で行いました。
谷崎に詳しい生徒や久しぶりの参加生徒、クラブで都合が付き最後に顔を出してくれた生徒もいて
たいへん賑やかな読書会となりました。

『秘密』とは？

真言宗の庫裡のひと間を借り受けて暮らしている主人公。彼は、寺の者が寝静まったあと毎夜様々な格好をして出掛けていた。
ある晩、小紋縮緬の袴に巡りあったことから女装をして出かけるようになる。そして、それをきっかけに彼はとんでもない世界
に足を踏み入れてしまう...

『中学生までに読んでおきたい日本文学 ふしぎな話』松田哲夫編 あすなろ書房 2011年に『秘密』は収録されています。



『秘密』を読んだ感想、不思議に思ったところ、好きな場面など
自由に語ってください！

女装

男性が女装するなんて！

女装している男性はどんな男性なのか？華奢な人なら似合うだろうけど、ごつい人だとちょっと...

明治時代から女装があったことに驚いた。

女装していたのにT女が男性に気づけたことに驚いた。

谷崎自身が女装したらどうだったのだろうか？

男装の麗人(『ベルサイユのバラ』『リボンの騎士』など)は良いが女装はちょっと受け入れ難い。

目隠しと女性

目隠しされていたのに、後日女性の家へたどり着くことができる集中力がすごい。
女性の本来の姿を知って興味をなくしてしまうのはどうか...秘密に執着しすぎなのでは？

あっさり女性を捨ててしまうところは印象的。

主人公はミステリアスな人とお付き合いしたいのでは？

女性に嫉妬するなんて！

秘密

秘密は秘密のままが時にはいい時があるのかな。

秘密=夢や非日常

秘密が明らかとなり、もっと恐ろしい世界に主人公は足を踏み入れたようだ。

秘密があれだけ(自宅)しかなく、最後まで自分を支配してくれる自分好みの女性ではなかった。

彼女は私だけが知っている秘密に優越感を感じていたのでは？

作品全体を通して

身体や手の様子、服装などが細かく女性が綺麗に描写されているところが谷崎らしく
映像として想像できる。

こんな作品も書いていたのかと思った。ほかの作品と違いドロドロしていない。

探偵小説のようだった。

貧民窟や売春宿がひしめく当時の繁華街・浅草が作品舞台。

作品の舞台は神戸でなら新開地？春日野道あたり？

渋谷が郊外なことに驚いた。

女装は衝撃的で、校内なら誰？なんて話も出ました。

谷崎は私(猫)が大好きだったのよ！私との写真は、『作家の猫』(コロナ・ブックス)コロナ・ブックス編集部編 平凡社 2006年によっているわ。





谷崎潤一郎はどんな人？

性質

マゾ、変人、ナルシスト

男性に対しては、マスキュリン

普通の小説は書いていない。もし、普通の人がこのような作品を書けたらすごいと思った。

母親は美人番付の大関で、母親が自慢でありマザコンだった。

足フェチで、特に足首から先が好きだった。足を見るためにシンクロを見に行ったこともあるほど。

墓には仏足石があり、死んでも女性に踏まれていたかった。

自宅にスッポン料理屋をよんで、病気であるにも関わらず死ぬ間際まで美味しいものを食べていた。

女性関係

ラブレターがものすごく多く、自分が受け取る側だったらうんざりしてしまう。

しかし、彼の奥さんになった人たちはそういった束縛が好きだったのか？と思った。

晩年手がしびれるようになってラブレターを書き続けていた。

お世辞にもイケメンとは言い難いが、最初の妻を友人に譲り渡す「細君譲渡事件」をはじめ

三度も結婚していることに驚く。

女性への贈り物の趣味が良かったし、作家なので言葉巧みに女性を口説いたのでは？

自分に勝る女性が好みなのは？

当時の作家は今で言うバンドマンのような存在。女性が「私が支えてあげなきゃ」と思ったのでは？

ちなみに、二番目の妻は当時サロンのようになっていた谷崎の自宅に出入りしていた女性だった。

人生最後の写真が女優と一緒に撮ったのが、なんとも谷崎らしいと思った。

作家

観察力があり、女性の描写が丁寧。

男尊女卑の時代であっても、決して上から目線ではない。

しかし、小説がかけないときは偉そうに断っている。(『メ切本』左右社編集部編 左右社 2016年参考)

実生活が作品に生かされている事が多い。

女性が好きだからこそ書けたのではないか。

死ぬ間際まで書かなきゃと思いついて原稿に書いていたことがすごい。

未完の作品がほぼないのが良い。

この作品は、ミステリ仕立てでコナン・ドイルの名前がでてる。

江戸川乱歩が谷崎の影響を受け、ミステリ作家としては彼を凌ぐ存在となった。

最後は、みんな楽しみのお茶会

今回のデザートは、『細雪』の執筆当時から谷崎が愛していた“モカロール”と

孫のたをりさんが好きで谷崎が買い求めた“ラングドシャ”です。ラングドシャ

は、フランス語で“猫の舌”の意味です。

モカロールは、ケーキ屋さんで特別にお願いして作っていただきました。自分で作ってみたい人は、NHK「グレーテルのかまど」のHPを参考にしてみてくださいね。

谷崎は死ぬ間際まで美味しいものを食べていた食通。そんな彼が愛した食べ物は、『作家のお菓子』(コロナ・ブックス) コロナ・ブックス編集部編 平凡社 2016年を参考に。



今回は初の試み“POP”を作成しました。POPの言葉をいくつか紹介します。

「眼かくしの先のその真実 美しい谷崎潤一郎の世界」

「心が荒んだとき、あなたならどうしますか？」

絵が得意な生徒は、人力車やT女を描いてくれました。

POPは図書館にありますので、ぜひ見に来てくださいね。



かなりの回数引越しをした谷崎。彼が住んでいた家のうち現在でも見ることができる倚松庵が神戸市内にあります。(公開は土日のみなので事前確認を！)

そして、芦屋市には谷崎潤一郎記念館があります。学芸員さんのお話は大変興味深かったですよ！

記念館には谷崎の歴代奥様をはじめ様々な写真がありました。司書の中では二番目の妻が美人！

最初の妻の妹(谷崎が女優にした)も美人！と話題になりました。4月末から「文豪ストレイドックス」の展示が再びあるそうです。ぜひ、足を運んでみてください。

7月18日(火)に実施予定です。詳細決まり次第、ちらしやHPでお知らせしますのでお楽しみに！

次回のお知らせ

次回作は、意外にも一度もしていない東野圭吾作品です。どの作品にするかはみなさんの投票によって決めますので、どしどし投票してくださいね。以下にブックログのおすすめランキング(2017年3月15日現在)を参考に載せておきます。上位5位は読書メーターのマズコレランキングと同じでしたが、古書店のおすすめランキングでは最新作も入ってきており随分違ったものでした。ランキング外からの投票も大歓迎です。

『容疑者Xの献身』 『白夜行』 『手紙』 『秘密』 『探偵ガリレオ』 『予知夢』 『さまよう刃』 『赤い指』 『幻夜』 『パラレルワールド・ラブストーリー』 『どちらかが彼女を殺した』 『悪意』 『プラチナデータ』

『変身』 『時生』 『夜明けの街で』 『卒業』 『宿命』 『分身』 『流星の絆』

7月18日(火)に実施予定です。詳細決まり次第、ちらしやHPでお知らせしますのでお楽しみに！

